



# 歯のはなし 歯科金属アレルギーについて



むし歯の治療で詰めたり・被せたりしている歯科金属が“アレルギーの原因”になることがあります。近年は皮膚科などで金属アレルギー診断を受けた後、治療のため歯科医院を訪れる患者さんも増えています。



## 金属アレルギーの症状は？

症状で特に多いのは、手の平や足の裏にできる「掌蹠膿疱症」<sup>じょうせきのうほうしょう</sup>という皮膚病です。  
これは手の平や足の裏に水疱やかゆみ・発疹などの症状が生じるもので。そのほか、「アトピー性皮膚炎」<sup>のり</sup>  
<sup>こうくうないへんへいたいせん</sup>などの慢性湿疹や、お口の中に白い苔のようなものができる「口腔内扁平苔癬」<sup>こうくうちへんぺい苔せん</sup>と  
いう症状が見られる場合もあります。



## 原因は？

歯に詰めたり・被せたりしている歯科金属が、唾液<sup>だえき</sup>によって溶け出すことでアレルギーが起こってしまいます。これを詳しく説明させていただくと、唾液でイオン化された歯科金属が、体内的タンパク質と結びつき、それを体が異物とみなすことでアレルギー症状が生じてしまうのです。



## ピアスと歯科金属との関係

ピアスやネックレスなどの装飾品も、歯科治療で使われる金属も、元をたどれば同じ金属なので、互いに影響し合ってしまいます。例えば、アレルギー体质の人がピアスを着けて何も起こらなくても、その後に歯の治療で金属を詰めたことで激しい皮膚炎に見舞われることもあります。このような形でアレルギー症状は段階的に現れることがよくあります。別々の場所にある金属でも、体に付着・貯留しているものがある一定量を超えると、アレルギー反応を起こす場合もあるそうです。



## 金属アレルギーを調べる検査

もし、金属アレルギーが疑われるような場合は、「パッチテスト」や「血液検査」などを受けてみるのもよいでしょう。



### パッチテスト

パッチテストとは、皮膚に試薬を貼って、皮膚に変化が出るかどうかを調べる検査です。



皮膚に反応があれば「陽性（アレルギーあり）」、反応がない場合は「陰性（アレルギーなし）」になります。

### 血液検査

血液検査をして金属アレルギーかを調べることもできます。

### その他の検査

■毛髪検査もありますが、これはアレルギー反応を調べるものではなく、毛髪に有害な金属がどの程度含まれているのかを調べる検査です。



■体に貯留されている金属の起電力（電流を流し続けようとする働き）を調べる検査もあります。アレルギーの原因となる金属は特に電流が流れやすい傾向があるため、お口の中の歯科金属に実際どれくらいの電流が流れているのか、他の金属とどれくらいの差があるのかを調べることができます。

■金属アレルギーの可能性が高い人は、お口の中の金属を全て取り除き、その後の経過を見る場合もあります。



## 歯科金属がアレルギーの原因だった場合は？

歯科金属がアレルギーの原因であった場合ですが、まずはアレルギーの原因となっている歯科金属を全て除去します。そして、金属を使わない詰め物・被せ物と置き換えていく治療が行われます。アレルギー体质そのものを治す治療はないため、原因となるものを遠ざけることが優先される治療となるでしょう。

### クイズの答え4

ライオン・サル・ウサギは、人間と同じようにお母さんのミルクで育ちます。しかし、アザラシは生まれてすぐにエサを取り始めるため、生まれた時から歯が生えています。こういった動物はエサが取れなければ死んでしまうのです。生まれた時からエサを取り始めるなんて… アザラシの世界も大変ですね…。